

就職率80%、定着率90%、平均給与17万7千円 発達障害者の強みを活かした就業支援で高い実績

右の数字はKaie n秋葉原事業所が1年目に送り出した就業者の実績だ。近年の新卒者の就職難、ミスマッチによる離職率の高さ、平均所得低下といった傾向の中で、驚くべき数字といっている。

「ソーシャルビジネスグランプリ2013夏」において、グロースアップ大賞（創業3年以内の注目起業家対象）とエンジャパン大賞をW受賞した、株式会社Kaie n代表取締役の鈴木慶太さん。その実績と同時に、社会事業を株式会社の収益事業として成り立たせている経済性が審査員の高い評価を得た。

他とはどこが違うのか？

Kaie nの支援プログラムは、従来のものとどう違うのか聞いてみた。

「当社では視覚的、あるいは体験的なプログラムをたくさん用意しています。が、そうした手法は従来からあります。まったく新しいことをやっているわけではなく、愚直に取り組んでいるだけです。

他と違うとすれば、冷たい言い方もしませんが、一人ひとりと寄り添わないことです」と意外な答えが。

「私は彼らと向き合う時は、なるべく論理的に伝えます。彼らにとってもそれが合っているようです。就業支援は万能の人間を育てるのが目的ではありません。手をかけなくとも、プログラムを通して自分の得意・不得意を知り、自分に合う体験に出会えば、普通に、あるいは普通以上に能力を発揮します。適性のあ

る職場に送り出してやれば、数字が高くなるのは当然です」

企業にもプラスになる関係を

Kaie nは、採用する側の企業のコンサルティングも業務としている。障害者雇用率確保のためであれ一般枠である、企業にとって発達障害者を雇用することの優先順位は高くない。しかし、社員の高活性化、目標や指示の明確化、組織を効率的に動かすといった視点では、企

業の最優先課題と共通する。慈悲による雇用ではなく、企業にとってもプラスになる関係を鈴木さんは目指す。

「私は資本主義に期待しています。富の偏りの問題は出てきていますが、長期で見れば圧倒的な生活の底上げをしてきた唯一のシステムです。その力を社会の問題解決に活かしたいです。社会事業といえども、何らかの価値に対して対価が支払われるものだと思っています」

WHATよりHOWが大事

「変化の大きい社会を生きるには、生涯学習は欠かせません。ただ気をつけたのは、何れもWHATを追い求めるのではなく、どう考えるかHOWが大切ということです。これは私自身やKaie nの変わらぬテーマです。そして社会起業を志すなら、ビジネスモデルや計画の変更を恐れず、現場から学ぶことを大切にすべきだと思います」

最後に「息子の発達障害をきっかけに、好きな仕事に出会えたのは幸運です。Kaie nで自分の能力を高めようと努力する彼らや、働く彼らの姿を見るのは大好きです」と、温かい目で語った。



鈴木さんは元NHKアナウンサー。NHKを6年で退職し、MBA留学を決意。その渡航2日前に当時3歳の息子が発達障害と診断された。留學中止も考えたが、アメリカは発達障害への理解や啓蒙活動が進んでいて、自分がショックを受けたことが恥ずかしくいらなかった。そして、デンマークのスペシャリストルネを知る。発達障害者の特性を活かしプログラムをチェックする企業だ。それをヒントにビジネスコンテストに出場し優勝。現在の事業とは違うが、そのときのMBA仲間や支援してくれた人たちの後押しが、帰国後のKaie n設立につながっている。

■株式会社Kaie n お問い合わせは
Webサイト：www.kaie n-lab.com
Mail：kaie n@kaie n-lab.com

シリーズ

社会起業家

株式会社Kaie n 代表取締役

鈴木慶太氏に聴く